

できることを工夫しながらやる

本日6月1日より学校は通常通り再開し、部活動も対外試合を除いてこれまで通りの活動が認められるようになり、徐々にではありますが、新しい日常を取り戻しつつあります。本来ならば5月末に前期県総体や高校野球地区大会、6月4日からは後期県総体が実施されていた時期です。各校とも壮行式や激励会を行い、学校を代表して出場する選手の活躍を祈り、励まし、選手はこれまで磨いてきた技術やチームとしての力を発揮し、それぞれの目標達成に向けて学校全体が活気にあふれ、躍動している時期でした。新聞やテレビではそれぞれの競技で高校生の活躍が報じられ、インターハイや中国大会への出場を決めた選手や学校は沸き、負けたとしても3年間積み上げてきた3年生にとっては、次のステップへ向かうための区切りの時期でした。

さらに、5月31日は全国植樹祭が開催され、県内外から6,000人の参加者を集め開催される予定でしたが、来年に延期となりました。植樹祭には本校からも吹奏楽部や式典等のアシスタントとして生徒が参加する予定でした。

5月末から6月にかけてこのように全国的あるいは県レベルでの大きな大会が行われる予定でしたので、今週はその活動報告や生徒同士あるいは教員と生徒との間で、労いや新チームへの引継ぎ等が行われ、学校は新しいステージへ向かうはずでした。これが新型コロナウイルス感染症の影響で、臨時休業、自粛、三つの密を避けた生活など、人との直接的なつながりを遮断することが最良の感染症予防策となるような生活が求められるようになってきました。

しかし、後ろ向きなことばかり考えていても、過ぎた時間は戻ってくるわけでもなく、今後前向きに新しいステージへ向かうように様々なことに取り組んでいかなければなりません。学校での生活スタイルはこれまでどおりとはいきませんが、各自が感染症対策を行いながら目標達成に向けて努力していくことしかありません。

県教委も対外試合を6月13日から再開する方針で、高野連は夏の大会の代替大会を開催することを決定し、高体連も種目によっては開催に向けた準備が進められるようになっているようです。学校での活動は少しずつ前に進み出しましたので、学習活動、3年生の進路、学校行事、部活動等の教育活動の遅れを取り戻すよう工夫しながら実践していきたいと考えています。

これからは、新型コロナウイルス感染症とともに生きていく社会を作ることが必要だといわれています。これは、感染リスクはゼロにはならないということを受け入れ、感染リスクを最小限に抑えながら学校教育活動を続けていくこととなります。「できないこと」を決めるだけでなく「できることは何か」、「どうやったらできるようになるか」を考えながら学校を続けていこうと思います。

